

取組概要(目的)

弘前大学浪江町復興支援ワーキンググループを中心とし、浪江町を教育実践のフィールドとした事業を展開する。保健学・教育学・理工学部の学生にフィールド活用型アクティブ・ラーニングプログラムを実践し、地域の子供たちや地域の方々へ情報発信する。また、帰還後の住民や町職員のためのリカレント教育プログラムと直接対話によるリスクコミュニケーションも実践する。

一 浪江町との連携体制の構築及び5年間の人材育成目標 一

- 1) 弘前大学学部学生および大学院生に対する人材育成【1～6のプログラム】
- 2) 放射線リスクコミュニケーション実践を目指した体験型アクティブ・ラーニングによる人材育成(リカレント教育)【7～8のプログラム】

これまでの成果

【1.看護学生のための教育プログラム】

- ・ 町民向けの道の駅なみえでの健康相談の実施
- ・ 浪江町役場職員への健康相談の実施 ・ 子育てサロンの支援
- ・ 大学院生の実習

【2.放射線防護を学ぶ学生のための教育プログラム】

- ・ 空間線量の測定とマッピングに関する演習
- 標葉祭り2023開催に貢献・・・会場の津島小学校・中学校の空間線量率を学生が測定し、浪江町役場に情報提供

【3.放射線生物影響を学ぶ学生のための教育プログラム】

- ・ プログラムの開始から2年をかけて、実地場所の空間線量測定や生息昆虫調査を実施。試行を繰り返し、「生物多様性評価体験型学習プログラム」を開発。今年度は、「生物多様性評価体験型学習のプログラム」をなみえ創成小学校と共有し、小学校の事業として6月、8月(親子参加)、9月に実施。

【4.環境防災を学ぶ学生のための教育プログラム】

- ・ 原子力災害・伝承館、震災遺構・浪江町立請戸小学校の見学
- ・ 東北地方太平洋沖地震の揺れを記録した2観測点を見学し、周辺の地形や地盤を見学、地震の揺れと地形・地盤との関係について学習

【5.環境放射能を学ぶ学生の教育プログラム】

- ・ 帰還困難区域の津島地区で、河川水、降水、大気降下物および大気浮遊塵の採取実習
- ・ 道の駅なみえ付近の河川水、加倉地区の井戸水の採水実習
- ・ なみえ創成小学校・中学校で、気象データを収集、降水採取を実施
- ・ 採取した試料を使用して、学内では化学分析演習

【6.地域教育を学ぶ学生のための教育プログラム】2023年度から実施

- ・ なみえ創成小学校、浪江にいても園の運動会の補助
- ・ なみえ創成小学校の昆虫採集の補助、教育支援
- ・ 1月に放射線に関する出前授業を予定

【7.浪江町民を対象とした放射線リテラシー醸成の教育プログラム】

- ・ 相馬双葉漁業協同組合請戸地区の職員を講師に迎えて、浪江町の海洋漁業や水産物の放射線について紹介
- ・ 東京電力福島第一原子力発電所の見学ツアーに参加、東京電力の職員を講師に迎えて発電所の現況について紹介

【8.子ども園職員自身が放射線リスクコミュニケーションを実践するための教育プログラム】

- ・ 職員の手技、測定頻度および場所、測定結果の確認
- ・ サーベイメータの取り扱い、測定方法の動画教材作成



1.道の駅なみえでの健康相談(血圧脈波の測定)



2.浪江町津島地区での空間線量率の測定



3.なみえ創成小学校児童と昆虫採集



5.なみえ創成小学校・中学校での気象観測法の実習



6.浪江にいても園、なみえ創成小学校運動会の補助



7.サロンなみつぶでの水産物の放射線についての講話

事業終了時点の成果及びその後の見通し

【事業終了時点の成果】

- 1) 学部学生および大学院生に対する人材育成について・・・災害看護や住民の健康支援、環境モニタリング、生物多様性とその保全、環境防災と環境放射線を体験・学習し、国内外に正しく情報発信できる。
- 2) 放射線リスクコミュニケーション実践を目指した体験型アクティブ・ラーニングによる人材育成(リカレント教育)について・・・浪江町民・子ども園職員を対象とした放射線リテラシー醸成のための教育を通じ、町民の放射線リスクに関する知識と認識が全体的に向上、平準化する。

【その後の見通し】 本事業は、5か年計画のなかで学部学生・大学院生のみならず子どもを含めた地域住民とともに継続的に実践しており、専門的人材と地域人材の育成の基盤を構築できている。その基盤を活かして今後も人材育成を継続するとともに、育成した人材が地域の課題解決に能動的に取り組めるようバックアップする。